

第20回

千葉県私学振興大会

～私学教育を考える集い～

大会決議

大会決議

本日、県内すべての私立小・中・高等学校 97 校の保護者と教職員が集い、第 20 回千葉県私学振興大会を開催しました。

千葉県知事並びに自由民主党千葉県議会私学振興議員連盟をはじめとする県議会議員、国会議員の皆様には、本県私学の振興に対し特段の御理解と御支援を賜っておりますこと、衷心より御礼申し上げます。

千葉県の私立学校は、それぞれの建学の精神と独自の教育理念のもと、時代の進展と社会の要請に応じた特色ある先駆的な教育を実践し、本県の公教育の充実と発展に貢献してまいりました。

千葉県に生まれ育つ子どもたちが、多様化する社会の変化に応え、新しい時代に相応しい資質と能力を身につけ、次代を担い活躍してくれることが私たちの願いであります。

「第 3 期千葉県教育振興基本計画」では、「私立学校は、公立学校とともに公教育の一翼を担い、県民の学校選択の自由を確保する重要な役割を果たしていることから、建学の精神に基づく教育の振興を図るとともに、公立学校との連携を推進することにより、県全体の教育の充実を図ります。」と謳います。

また、基本計画は「私立学校の経営の健全性を高めるとともに、(中略)保護者の経済的負担の軽減等を図るなど、私立学校の振興を図る」とも明言しています。この基本計画に則った「私立学校の振興」を強く求めます。

しかしながら、私立学校を取り巻く状況は、少子化による児童生徒の減少や、高校の生徒募集定員配分における公立優位の考え方などにより、多くの私立高校が募集定員を充足できないなど、厳しい経営環境にあります。

また、保護者の教育費負担については、国の就学支援金や県の授業料減免制度が大幅に拡充されていますが、保護者の所得制限があるなどで、実質的に無償化されている公立学校とは大きな格差が依然として存在しています。

現在、わが国は少子高齢化が進行する中で、新しい時代「Society5.0」に向け、教育分野においても様々な改革が国家的取組みとして進められて

います。新型コロナウイルス感染拡大への対応を契機とし、ICT 教育環境整備・G I G A スクール構想の早期実現が喫緊の課題となっておりますが、私立学校や保護者に対するそのための公的支援は公立学校水準にはまだ達していません。

また、現下の国際情勢等の影響により、原油価格や電気・ガス料金を含む物価の高騰が私立学校経営にも大きな影響を及ぼしているのが、現状です。

今や、子育てや教育への支援は、公立・私立の区別なく、未来への投資として社会全体が力を注ぐべきものであります。

将来を担う子供たちに学校選択の自由が十分に保障され、経済的な理由によって希望する学校への進学が断念されてしまうことがないよう、そして、公立学校・私立学校が互いに切磋琢磨し、それぞれの特色を活かしながら、公私協調によって「教育立県ちば」の教育振興が図られることを切に願い、ここに、私たちは次の4項目が早期に実現することを要望いたします。

記

- 1 千葉県教育振興基本計画に則った私立学校の振興に努め、公私協調による公教育の充実を図ること
- 2 私立学校の健全な経営等に資するため、経常的経費に対する財政支援を拡充強化すること
- 3 私立高等学校の授業料の実質無償化を確実なものとするとともに、私立小中学校の保護者に対する経済的負担軽減のための支援制度を一層拡充すること
- 4 すべての私立高校が募集定員を確保し経営の健全化が図られるように、公立高校の再編と統合・定員減の実現を図ること

以上、決議する。

令和5年10月7日
千葉県私学振興大会